

使い方の手引き

★より安全のために

- ① つぎのようなときは、必ず電源スイッチを切りコンセントからプラグをぬいてください。

- 針の周辺でいろいろな作業、たとえば糸通し、針の交換、下糸交換、などの作業をするとき
- 部品の交換、ミシンの手入れをするとき
- ミシンのそばをはなれるとき
- 使用後
- 停電した時

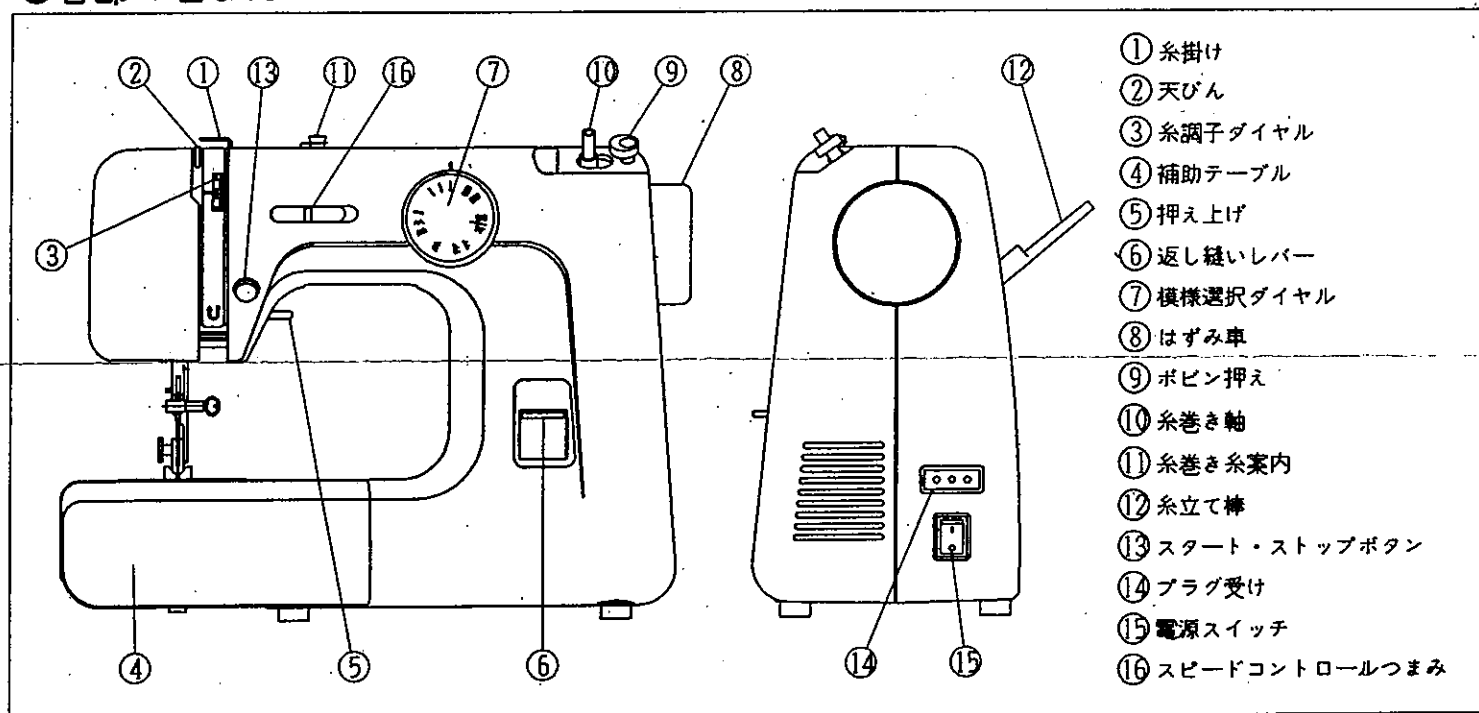
- ② ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないでください。

★ご使用の前に

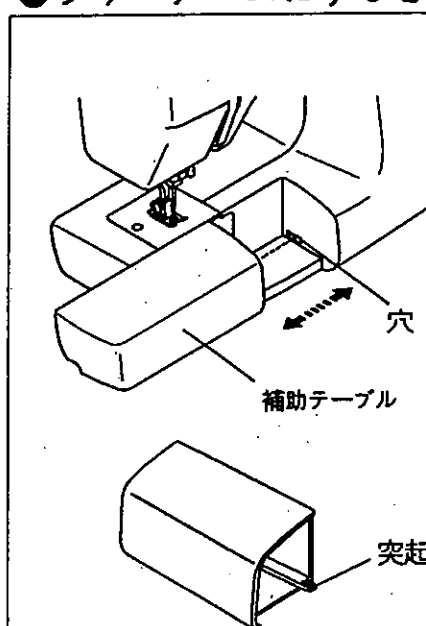
- ① ほこりや油などで縫う布を汚さないように、ミシンを乾いたやわらかい布でよくふいてからお使いください。シンナー、ベンジン、ミガキ粉は絶対に使用しないで下さい。

- ② ミシンはこの＜使い方の手引き＞を見て、正しく、お使いください。

●各部の名まえ



●フリーアームにするとき

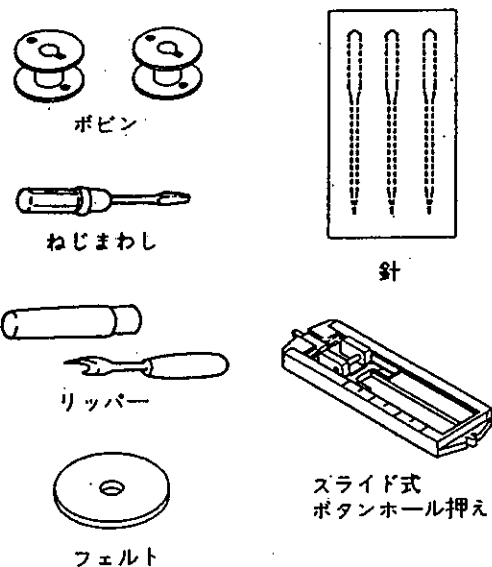


★補助テーブルのつけかた

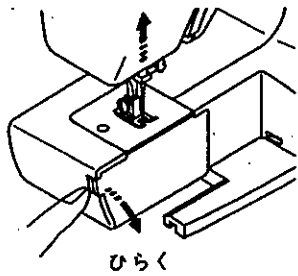
補助テーブルをフリーアームに
そってさしこみ、突起を穴にお
さめます。

補助テーブルは付属品や電源
コードを収納するために使い
ます。

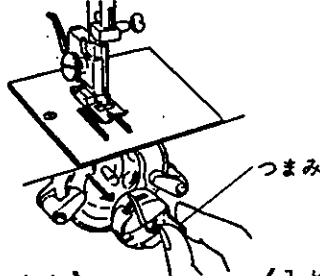
●標準付属品



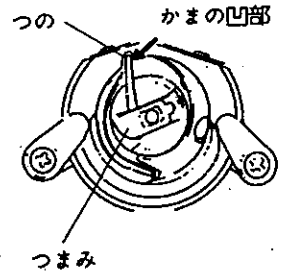
●ボビンケースのはずしかた、入れかた



針と押えをあげベッド
ふたをひらきます。



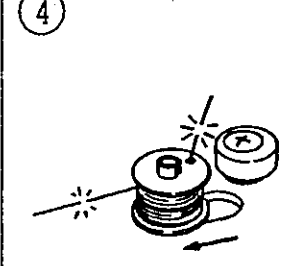
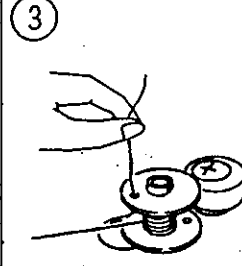
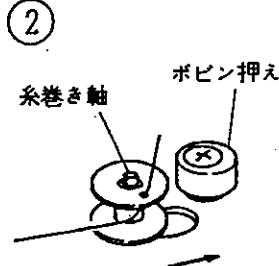
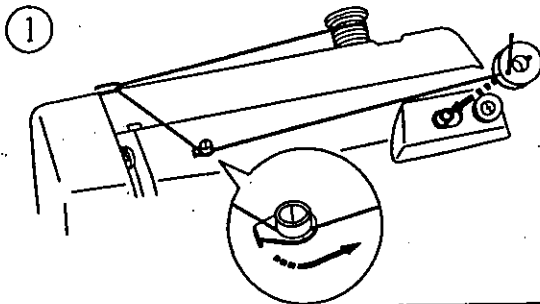
《はずしかた》
ボビンケースのつまみ
を持って、とりだします。



《入れかた》
ボビンケースのつまみ
を持って、かまにとり
つけます。

※入れるときには、ボビンケース
のつのを、かまの凹部に合わせ、
奥の方へいっぱいに入れてから、
つまみをはなし、ベッドふたを
しめます。

●ボビンに下糸を巻くには

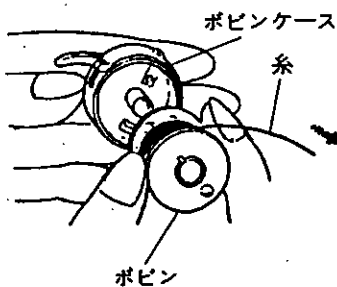


- ① 押え上げをあげ、糸こまからひきだした糸を、糸掛け糸巻き糸案内にかけます。
- ② ボビンの穴に内側から糸を通し、ボビンを糸巻き軸にさしこみ、ボビン押えの方に押しつけます。
- ③ 糸の端をつまんだまま、スタート・ストップボタンを押して巻きはじめます。
- ④ 巻きおわったらミシンを止めてボビンをもとに戻して、穴のさわで糸を切ります。

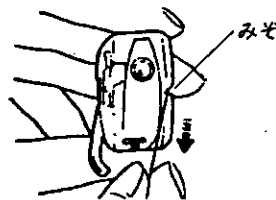
《注意》

下糸を巻くときも針が動きますので、針の付近には、手を近づけないようにしてください。
糸巻き軸を動かす時は、必ずミシンを止めてください。

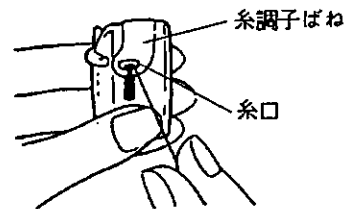
●ボビンをボビンケースに入れるには



- ① 糸の端を、図の方向、(時計回
り)にたらし、ボビンケー
スにいれます。



- ② みぞに糸を通します。



- ③ 糸を引いて、糸調子ばねの下
を通し、糸口に引き出します。
糸は10cmほど出しておきま
す。

【修理サービスのご案内】

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保存して下さい。
- 無料修理保証期間内(お買い上げ日より1年間です)およびそれ以後の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付け下さい。

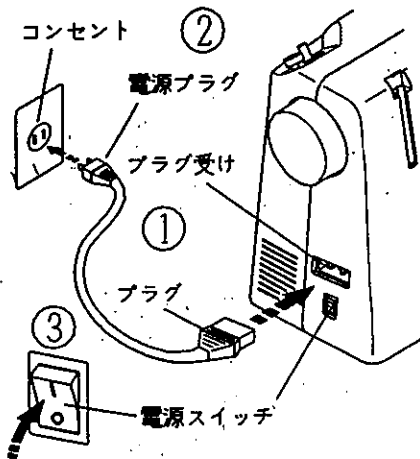
【修理用部品の保有期間】

- 当社は動力伝達機能部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

【無料修理保証期間経過後の修理サービス】

- 使い方の手引に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後も、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスを行います。ただし、次のような場合は修理できないことがあります。
- ①保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
- ②浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
- ③お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
- ④お買い上げ店、又は当店の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
- ⑤職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

●電源のつなぎかた



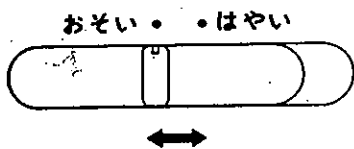
- ① 電源スイッチを切ってから、プラグをプラグ受けにさしこみます。
- ② 電源プラグをコンセントにさしこみます。
- ③ スタート・ストップボタンが「ストップ」の位置にあることを確認しスイッチを入れます。

※ 電源は、一般家庭用（100V50/60HZ）です。
※ ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

【注意】

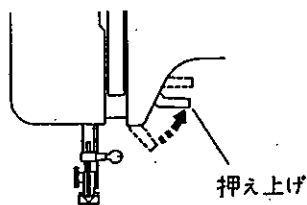
スタート・ストップボタンが「スタート」の状態（押した位置）で、電源スイッチが「入」になっている場合は、電源プラグをつなぐと同時にミシンが動きだし危険です、必ずスタート・ストップボタンを「ストップ」の状態にしてください。

●スピードコントロールつまみ



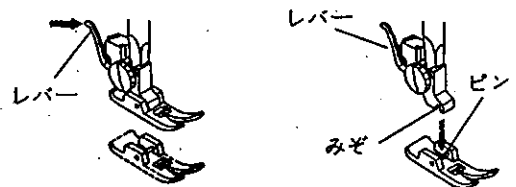
縫う速さは、「はやい」「おそい」の、好みの速さに、つまみをセットしてください。
カーブや細かいところを縫う時は、「おそい」にセットして縫いましょう。

●押え上げ



はずみ車を手前にまわし、針を最上部にあげます。
押え上げて押えをあげさせます。押え上げを、さらに高くあげると、押えの位置もさらにあがります。

●押えのはずしかた、つけかた



《はずしかた》

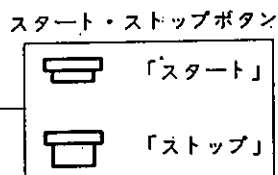
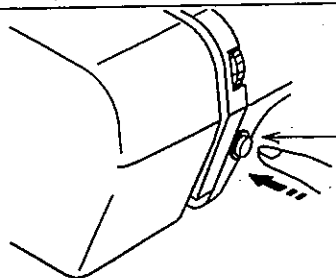
押えあげをあげ、押えホルダーのレバーを押します。

※押えを無理に引いて、はずさないでください。

《つけかた》

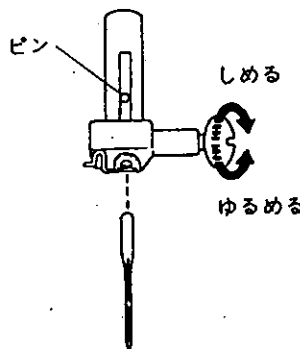
押えのピンをホルダーのみぞの真下において、押えあげを静かにおろし、ピンをみぞに入れます。

●スタート・ストップボタン



ボタンを押すと、ミシンはスピードコントロールつまみでセットした速さで縫いはじめます。もう一度押すと停止します。

●針のはずしかた、つけかた



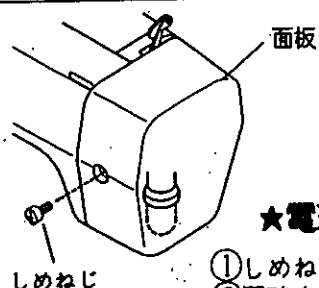
《はずしかた》

針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針をはずします。

《つけかた》

針の平らな面を向こう側に向けて、針止めにさし、ピンにあたるまで押し込み針止めねじをかたくしめます。

●照明ランプ



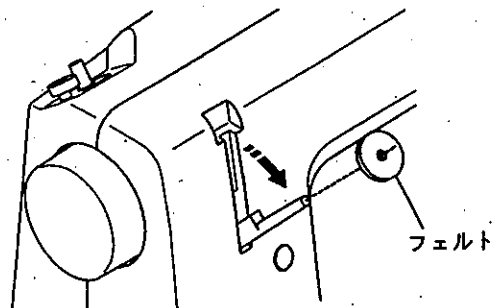
★つけかた、消しかた
電源スイッチの「入」「切」によって点滅します。

★電球のとりかえかた

- ① しめねじをはずして、面板をはずします。
- ② 電球をはずすときは、左へまわします。
- ③ 電球をつけるときは、右へまわします。

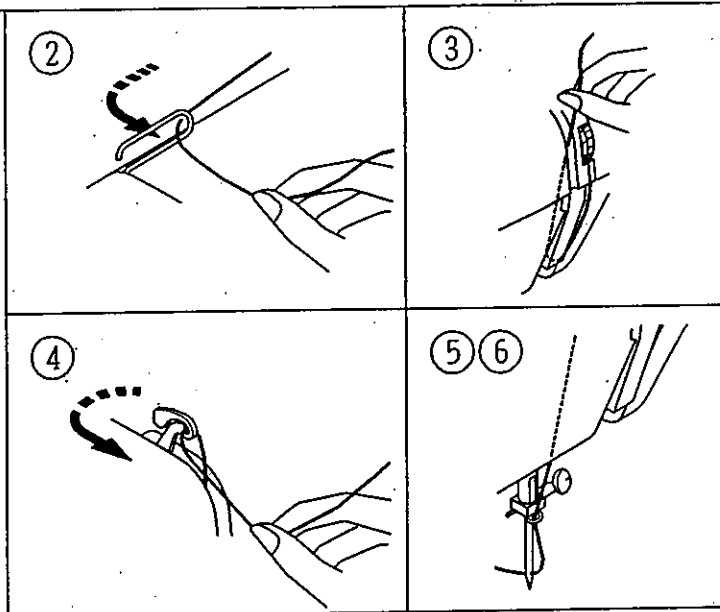
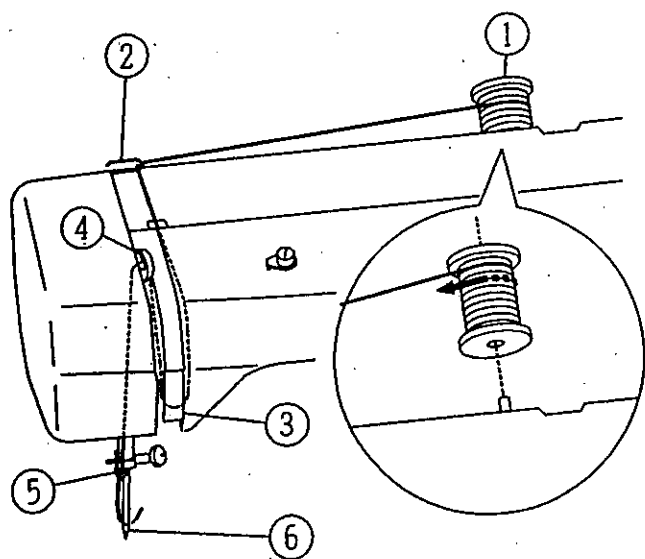
※電球のとりかえは、電源プラグを抜いてから行なってください。

●糸立て棒



糸立て棒は、ミシン本体に収納されていますので、いっぱい引き出してセットしてください。収納するときは、押し込んでください。

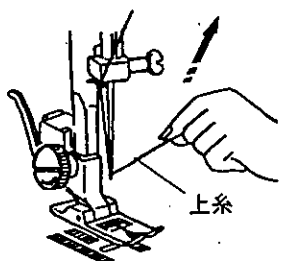
●上糸を掛けるには



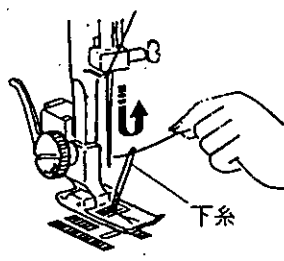
押え上げをあげ、はずみ車を手前に回し、天びんを上部にします。
糸こまを押えながら、正しく糸を掛けてください。

- ① 糸こまは糸口が手前に来るようにセットします。
- ② 糸こまから糸を引き出し、糸掛けの向こう側から右側のみぞにそって下におろします。
- ③ 糸案内板の下を回して、右から左に掛け、上に引きあげます。
- ④ 天びんには、右から後ろを回して左へ出し、手前に引き出して、まっすぐ下におろします。
- ⑤ 針棒糸掛けに左から掛けます。
- ⑥ 針には、手前から向こう側に糸を通し、糸の端を10cmほど引き出しておきます。

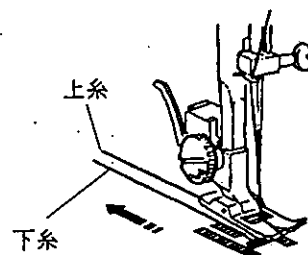
●下糸を引きあげるには



- ① 左手で上糸の端をつまんで
ややゆるめて持ちます。



- ② 右手ではずみ車を手前にまわし、針をいったんさげてから再びあげます。
天びんが最上部にきたら、上糸を軽く引くと、下糸が「輪」になって出てきます。



- ③ 引き出した下糸と上糸を、押えの下から向こう側へ、15cmほど引き出して、そろえておきます。

【仕様】

サイズ：幅331mm×奥行141mm×高さ254mm

重量：4.9kg (本体)
他に補助テーブル、付属品など (0.2kg)

縫速度：毎分500回転

使用針：家庭用、HA×1

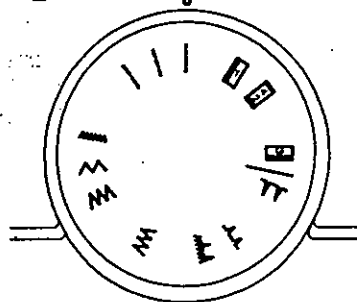
【お客様の相談窓口】

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は
下記にお申しつけ下さい。

〒184 東京都小金井市本町1-14-25
蛇の目ミシン工業(株)
法人事業部
TEL 0423-82-2261
FAX 0423-82-2268

●模様の選びかた

ここに合わせる→

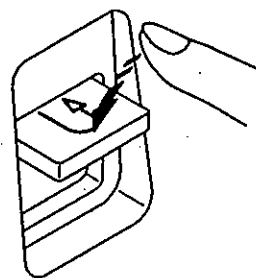


針をあげてダイヤルをまわし、縫い目を選びます。

※針が布にささったままで模様選択ダイヤルをまわすと針がまがったり、折れたりする原因になります



●返し縫いレバー



返し縫いレバーを押している間は返し縫いをし、指をはなすと、前進縫いに戻ります。

●ボタン穴かがり

セットの目安

模様

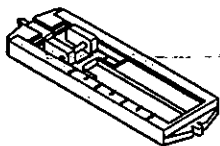


糸調子ダイヤル

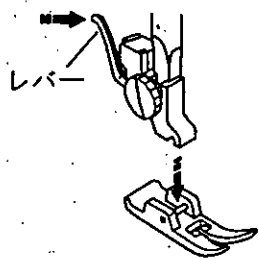
1~5



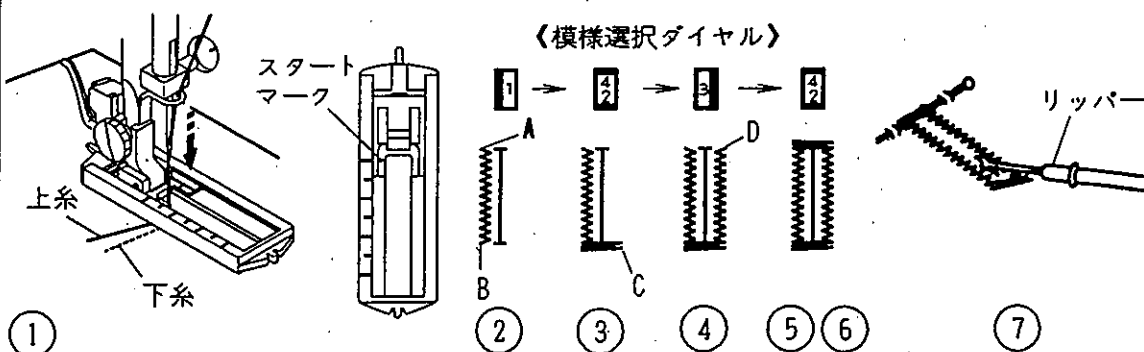
ボタンホール押え



《押えの交換》



レバーを押して、基本押えを外しボタンホール押えに交換します。



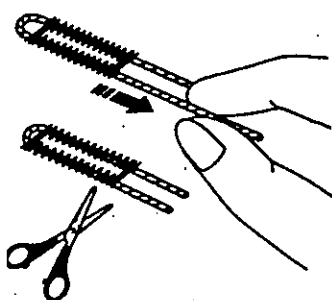
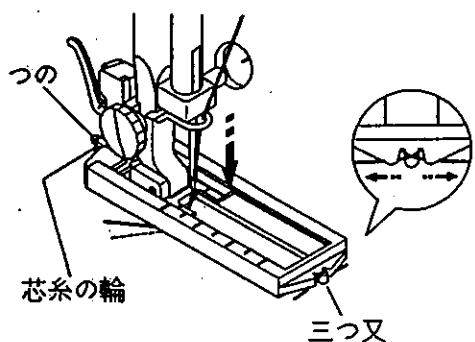
※縫うものと同じ布で試し縫いをして、セットを確かめましょう。
※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地をはってください。

《縫い方》

- ① 針をあげて模様 **1** を選び、上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえ、押えを手前いっぱいまで引き出してスタートマークを合わせます。
- ② 縫い始めの位置(A点)に針を刺して押えをおろし、ミシンをスタートさせます。左側に必要な長さ(B点)まで縫ってミシンを止めます。
- ③ 針をあげて模様 **2** を選び、かんぬきを5針くらい(C点)まで縫い、ミシンを止めます。
- ④ 針をあげて模様 **3** を選び、左側と同じ長さ(D点)まで縫い、ミシンを止めます。

- ⑤ 針をあげて模様 **4** を選び、かんぬきを5針くらい縫います。
- ⑥ 押え上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切ります。上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸をむすびます。
- ⑦ かんぬきの内側にまち針をさし、縫い糸を切らないように切りひらきます。

★芯入りボタン穴かがり

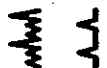


- ① 芯糸の輪を押えの後ろ側にあるつのに掛け、押えの下から手前に、平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。縫いはじめの位置に針をさし、押えをさげます。
- ② ボタン穴かがり手順と同じように縫います。
- ③ 左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

●くけ縫い

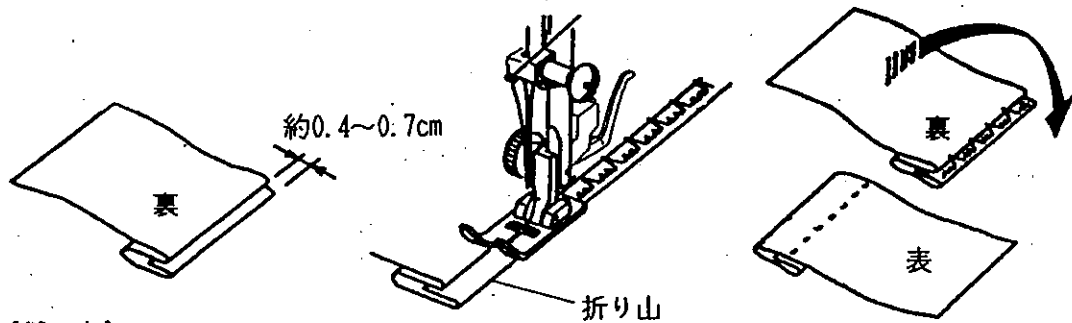
セットの目安

模様



糸調子ダイヤル

1~4



《縫い方》

- ① 布を図のように上の折り山と下の折り山を約0.4~0.7cmほどずらします。
- ② 針がもっとも左にきたとき、わずかにおり山をさすように布をおいて、押えをさげます。
- ③ 縫い終わったら、布をひろげます。

※アイロンで押えると、きれいに仕上がります。

●シェルタック縫い

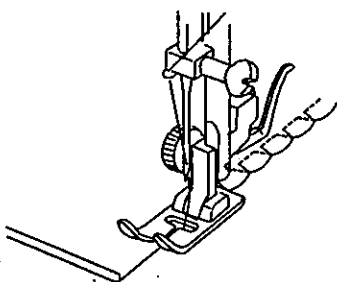
セットの目安

模様



糸調子ダイヤル

3~9



《縫い方》

うす手の布をバイアスに2つ折りにし、右側を輪(わ)にして押えの下におきます。はずみ車を手前にまわして針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側におるようにして縫います。

※糸調子は、試し縫いをして、シェルタックの山がきれいに出るように調節します。

●糸調子を出すには

素材や縫い方によって、糸調子ダイヤルをまわして調整します。糸調子が正しく調整されていないと、縫い目がきたなくなり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

《直線縫いの正しい糸調子》

上糸と下糸が布のほぼ中央で、まじわります。

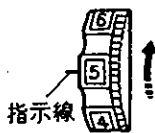


《上糸が強い場合》

下糸が布の表に出ます。



糸調子を弱めます。

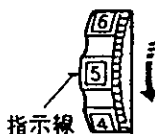


《上糸が弱い場合》

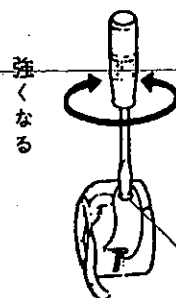
上糸が布の裏に出ます。



糸調子を強めます。

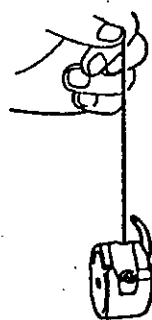


●下糸調子を調節するには



ボビンケースの調子ねじをまわして調節します。右にまわすと、下糸調子は強くなり、左にまわすと下糸調子は弱くなります。

調子ねじ



《目安》

糸を持って上下にかかるくゆるしたとき、ボビンケースがゆっくりさがるぐらいに調整します。(約50g)

●布と糸と針の関係

布に適した糸と針の目安

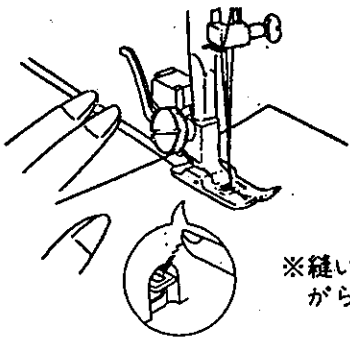
布		糸	針
うすい布	クレープ、デシン、ボイル、ローン、オーガンジー、ショーゼット	細手絹糸 細手綿糸 (細手化繊糸)	9 番 または 11 番
普通の布	普通もめん、ピケ、サージ、その他一般服地	絹糸50番 綿糸50番～80番 (化繊糸50番～60番)	11 番 または 14 番
厚い布	デニム、ツイード、ギャバジン、コート地	絹糸50番 綿糸40番～50番 (化繊糸40番～50番)	14 番 または 16 番

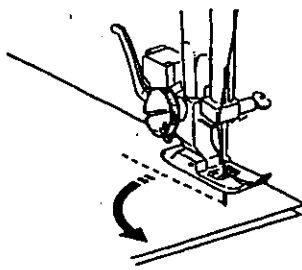
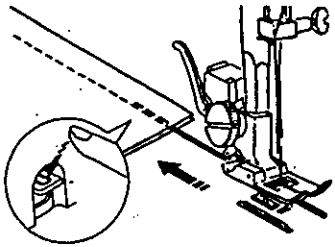
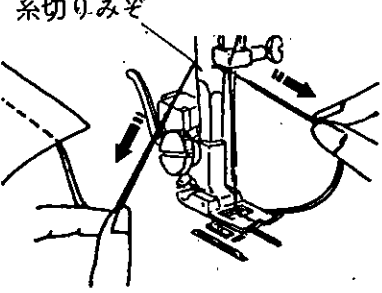
※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、糸と針を選び、試し縫いをして確かめてください。

※原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

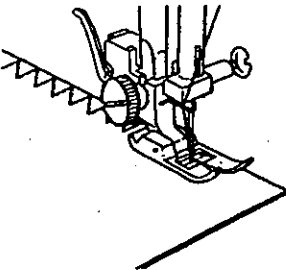
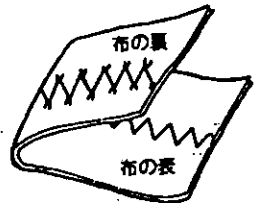
※伸縮性のある布(ジャージー、トリコット)や目のとびやすい布地などには、ブルー針を使用すると効果があります。

●直線縫い

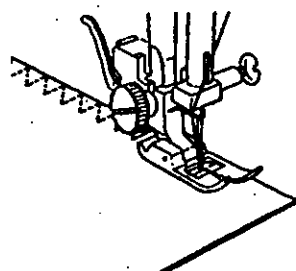
セットの目安 模様  糸調子ダイヤル 2~6 	 ★縫いはじめ 糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。押えをさげて、スタート・ストップボタンを押してゆっくり縫いはじめます。 ※縫いはじめのほつれ止めは、返し縫いレバーを押しながら、数針返し縫いをします。
--	--

★縫い方向をかえる  ミシンを止め、針を布にさしたままで押えをあげ、布をまわして縫い方向をかえます。	★縫いおわりと糸の切りかた  返し縫いレバーを押しながら、数針返し縫いをします。押えをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。  糸切りみぞ 押え棒の糸切りみぞで糸を切ります。
---	---

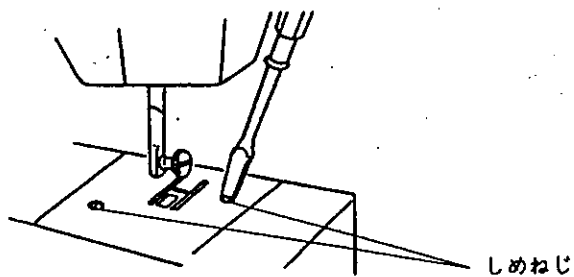
●ジグザグ縫いと裁ち目かがり

セットの目安 模様  巾2 巾3.5 巾5 糸調子ダイヤル 2~5 	 裁ち目のほつれ止めをするときには、はずみ車を手前にまわして針が右にきたとき、布端ざりざりの外側におりるようにして縫います。 ※試し縫いをして、適切な糸調子を出してください。 ※目のとびやすい伸縮性の布や、目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります	〈ジグザグ縫いの糸調子〉  ジグザグ縫いの糸調子は、布の裏側に上糸が少し出るくらいに調節します。
--	--	---

●トリコットステッチ

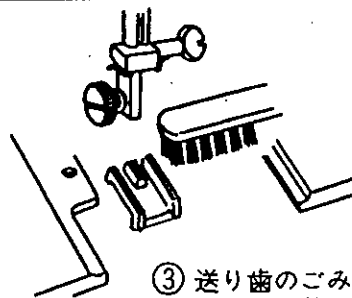
セットの目安 模様  糸調子ダイヤル 3~6 	 ジャージやトリコットなど伸びやすい布どうしのはぎ合わせに適しています。また、この縫い目で布のへりをかがると、ほつれ止めや、かえり防止に効果があります。 ※目のとびやすい伸縮性の布や目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります。
--	---

●送り歯の手入れ



① 針と押えをはずします。

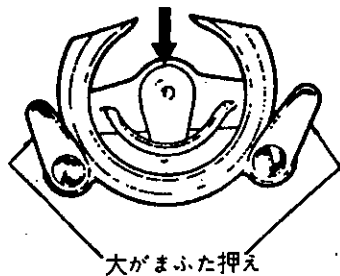
② 針板のしめねじをはずして、針板をはずします。



③ 送り歯のごみを、はけ・ブラシなどで手前に落とします。

④ 針板をつけて、ねじをしめます。

●かまの手入れ



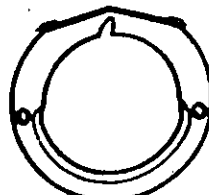
① 針をあげて、ベッドふたをあけ、ボビンケースをはずします。



ボビンケース



中がま



大がまふた

② 大がまふた押えを左右にひらき、大がまふたと中がまをはずします。

③ ブラシでかまの内部を掃除し、矢印のところに1~2滴ミシン油を注油して、布で軽く拭きとります。

④ 中がまを油布で拭きます。

⑤ はずしたときと逆の順序でくみつけます。

●ミシンの調子が悪いとき

調子が悪いとき	その原因	なおしかた
上糸が切れる。	1. 上糸の掛けかたがまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針がまがっていたり、針先がつぶれている。 4. 針のつけかたがまちがっている。 5. 布に対して針や糸が細すぎるか太すぎる。	上糸を正しく掛けなおす。 上糸調子を弱める。 針を交換する。 正しくつける。 適切な針や糸をえらぶ。
下糸が切れる。	1. ボビンケースに下糸の通しかたが、まちがっている。 2. ボビンケースの調子ばねを強くしめすぎている。 3. ボビンケースの中やばねの中に、ごみがたまっている。	正しく通しなおす。 ねじを少しだけゆるめて、下糸調子を適切にする。 ボビンケースを掃除する。
針が折れる。	1. 針のつけかたが、まちがっているか、針がまがっている。 2. 針を布にさしたままで、模様選択ダイヤルをまわした。 3. 布を無理に引いた。 4. 布に対して針が細すぎる。	針を交換するか正しくつけなおす。 針を布より上にあげてからダイヤルをまわす。 布を無理に引かない。 針を交換する。
縫い目とぶ。	1. 針のつけかたがまちがっているか、針がまがっている。 2. 布に対して針や糸が細すぎるか太すぎる。 3. 伸縮性のある布や目のつんだ布にブルー針を使っていない。 4. 上糸の掛けかたがまちがっている。	針を交換するか正しくつけなおす。 適切な針や糸を選ぶ。 ブルー針を使う。 上糸を正しく掛けなおす。
縫い目がしわになる。	1. 上糸または下糸の調子が強すぎる。 2. 上糸・下糸の掛けかたがまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。	糸調子を適切にする。 糸を正しく掛けなおす。
縫い目に輪ができる。	1. 上糸または下糸の調子が合っていない。 2. 布に対して針や糸が細すぎるか太すぎる。 3. 上糸や下糸の掛けかたがまちがっている。	糸調子を適切にする。 適切な針や糸を選ぶ。 糸を正しく掛けなおす。
布送りがうまくいかない。	1. 送り歯に糸くずがたまっている。	送り歯を掃除する。
ミシンの回転が重い。 音が高い。	1. 送り歯やかまに、ごみや糸くずがたまっている。 2. かまの油がきれている。	掃除する。 注油する。